

アジア文化特論

担当教員 津波 高志

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

韓国の歴史・言語・文化について基本的な諸事項を講義し、今日の日韓関係を学生自ら考えることを可能にした

い。

【授業の展開計画】

- 第1回：講義全体の概要を説明
- 第2回：韓国の歴史（1）
- 第3回：韓国の歴史（2）
- 第4回：韓国の歴史（3）
- 第5回：韓国の言語（1）
- 第6回：韓国の言語（2）
- 第7回：韓国の言語（3）
- 第8回：韓国の社会構造（1）
- 第9回：韓国の社会構造（2）
- 第10回：韓国の社会構造（3）
- 第11回：韓国の宗教（1）
- 第12回：韓国の宗教（2）
- 第13回：韓国の宗教（3）
- 第14回：済州島の歴史
- 第15回：済州島の文化
- 第16回：講義全体のまとめ

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席とレポートで判断する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

英語学特論

担当教員 李 イニッド

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to equip prospective and in-service English language teachers with the linguistic knowledge and skills that enable them to facilitate learning for their students and raise their own sensitivity to issues that affect interlanguage development.

本講義では、英語教師に必要とされる英語学の専門知識を身につけることを目標とする。受講者の希望に応じ講義内容を変更する可能性がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction インTRODダクシヨN
2	What is pragmatic competence? 語用能力とは
3	Pragmatics vs. semantics 語用論 vs. 意味論
4	Speech acts 発話行為
5	Conversational implicature 会話の含意
6	Illocutionary force 発話内の効力
7	Politeness ポライトネス
8	What is cross-cultural pragmatics? 異文化間語用論とは
9	What is interlanguage pragmatics? 中間言語語用論とは
10	Developmental issues (1) 語用論的能力の発達 (1)
11	Developmental issues (2) 語用論的能力の発達 (2)
12	Pedagogical implications (1) 外国語教育への示唆 (1)
13	Pedagogical implications (2) 外国語教育への示唆 (2)
14	Research proposals (1) 研究計画 (1)
15	Research proposals (2) 研究計画 (2)
16	Oral presentations 口頭発表

【履修上の注意事項】

Students are expected to engage in extensive reading, summarize the main points of each article and present them in class. Class discussions, rather than lectures, will make up the bulk of our in-class time.

受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。

【評価方法】

Attendance & class participation (50%). Term paper & oral presentation (50%).
出席率及び授業参加態度(50%)、レポート及び口頭発表(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料 (英語・日本語)

【参考文献】

講義開始時に指示する。

英語教育学特殊研究 I

担当教員 李 イニッド

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

The goal of this course is to help students prepare for a master's thesis in English language teaching. Through reading and discussing current research, students will develop an awareness of the contemporary research and acquire the basic skills to conduct individual research projects.

【授業の展開計画】

Week 1 Introduction
Weeks 2-4 Overview
Weeks 5-13 Selected topics: theory & research
Weeks 14-15 Research questions & hypotheses
Weeks 16-19 Research methodology
Weeks 20-22 Reporting the language data
Weeks 23-27 Data analysis & discussion
Weeks 28-30 Individual conferences
Weeks 31-32 Oral presentations

【履修上の注意事項】

Students are expected to complete the required reading materials before coming to class, actively participate in class discussion, and conduct a research project.

【評価方法】

Attendance and class participation (50%). Research project (50%)

【テキスト】

To be announced in class.

【参考文献】

英語教育学特殊研究Ⅱ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

This is a required course designed to assist second year graduate students in completing their MA thesis with special attention given to the preparations for their Work in Progress Presentations in the spring and their submission and defense of their MA theses in the following winter.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Review of "Gaiyo" (概要)	17	Review of Summer Work
2	Fieldwork and Individual Consultation	18	Return of Draft
3	Fieldwork and Individual Consultation	19	Submission of Draft
4	Fieldwork and Individual Consultation	20	Return of Draft
5	Fieldwork and Individual Consultation	21	Submission of Draft
6	Fieldwork and Individual Consultations	22	Return of Draft
7	Fieldwork and Individual Consultation	23	Submission of Draft
8	Fieldwork and Individual Consultation	24	Return of Draft
9	Fieldwork and Individual Consultation	25	Submission of Draft
10	Fieldwork and Individual Consultation	26	Return of Draft
11	Fieldwork and Individual Consultation	27	Submission of Final Draft of Thesis
12	Prep. for Interim Report 中間発表	28	Preparation for Oral Defense
13	Prep. for Interim Report 中間発表	29	Preparation for Oral Defense
14	Prep. for Interim Report 中間発表	30	Preparation for Oral Defense
15	Prep. for Interim Report 中間発表	31	Preparation for Oral Defense
16	Prep. for Interim Report 中間発表		

【履修上の注意事項】

Students should note that it is expected that the written work for this class will be submitted in English.

【評価方法】

Students will be evaluated based on their ability to meet deadlines and the quality of their writing in their theses.

【テキスト】

While there is no exam per se for this class, it is expected that the MA thesis will be submitted in conjunction with this class.

【参考文献】

Students should follow the models of the APA Publication Manual.

英語教育学特論 I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This class is an introduction to English teaching with a special emphasis on teaching English as an international language.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Course Introduction and Registration
2	English as an international language
3	English as an international language
4	Bilingual users of English
5	Bilingual users of English
6	The native/non-native dichotomy
7	The native/non-native dichotomy
8	Standards for English as an international language
9	Culture in teaching English as an international language
10	Culture in teaching English as an international language
11	Culture in English language textbooks
12	Language learning and identity
13	Language learning and identity
14	Teaching methods and English as an international language
15	Teaching methods and English as an international language
16	Student presentations and course evaluation

【履修上の注意事項】

Students should note that this class will be taught primarily in English.

【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, participation and a research paper.

【テキスト】

McKay, Sandra Lee (2002). Teaching English as an International Language. Oxford: Oxford University Press.

Other readings provided by the instructor.

【参考文献】

Papers should conform to the APA Publication Manual

英語教育学特論Ⅱ

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英語指導を理論と実践の面から学習する。

【授業の展開計画】

Reading assignmentとディスカッションを通して各テーマの理解を深める。

【履修上の注意事項】

事前に教科書（指定の章）を熟読すること。

【評価方法】

授業参加率、発言、提出物、テストを総合的に評価します。

【テキスト】

Techniques and Principles in Language Teaching by Diane Larsen-Freeman (Oxford)

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

英語論文の書き方 I

担当教員 里 麻奈美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を意識し、自分の主張を論述する方法の習得を目的とする。「なんとなく興味のある事」をどのように「研究に値する課題」として設定するのか、仮説のたてかた、検証方法を用いた論証の仕方、文献の引用の仕方など、英語の論文を書くにあたって必要な知識をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	英語論文の書き方概要
3	研究テーマの設定の仕方・書き方
4	研究テーマの設定の仕方・書き方
5	仮説のたてかた・書き方
6	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方
7	先行研究の見つけ方・引用の仕方・書き方
8	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッションI
9	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッションII
10	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッションIII
11	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
12	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
13	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
14	個人の論文(イントロダクションから研究方法まで)についてのディスカッションI
15	個人の論文(イントロダクションから研究方法まで)についてのディスカッションII
16	論文の提出

【履修上の注意事項】

受講者は課題として与えられた文献を精読し発表する。また、自分個人の研究テーマをみつけ、英語でイントロダクションから研究方法までの論文を作成する。

【評価方法】

出席および講義参加態度(50%)、発表および論文(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

講義開始時に指示する。

英語論文の書き方Ⅱ

担当教員 里 麻奈美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「英語論文の書き方Ⅰ」に続き、英語の論文を書く為に必要な知識を習得する事を目的とする。分析方法の書き方、仮説に対する結果の書き方、結論・考察の書き方をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	英語論文の書き方概要
3	分析方法・書き方
4	分析方法・書き方
5	仮説に対する結果の書き方
6	仮説に対する結果の書き方
7	結論・考察の書き方
8	個人の研究テーマに関するディスカッションⅠ
9	個人の研究テーマに関するディスカッションⅡ
10	個人の研究テーマに関するディスカッションⅢ
11	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
12	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
13	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)
14	個人の論文(分析方法から結論・考察まで)についてのディスカッションⅠ
15	個人の論文(分析方法から結論・考察まで)についてのディスカッションⅡ
16	論文の提出

【履修上の注意事項】

受講者は課題として与えられた文献を精読し発表する。また、自分個人の研究テーマに関する論文を英語で分析方法から結論・考察まで作成する。

【評価方法】

出席および講義参加態度(50%)、発表および論文(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

講義開始時に指示する。

英米小説特論 I

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 2015年度閉講

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、「小説の読み方」に関する技術的な必須事項を修得することを目的とする。プロット、キャラクター、シンボリズム等に関して、実際の作品を読むことを通して学んでいくが、その最適な手段は、短編小説の精読であろう。そのため、本講義では、The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編を読むこととする。個々の受講生は、各作品ごとに、あらすじ、作品のテーマや手法、その他の問題点などをまとめたレジюмеを作成し、講義に臨む。講義では、レジюмеを基にディスカッション形式で進めていく。また、併せて作品に関する批評を検討する。

【授業の展開計画】

上記 The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編小説を読み進む。進度は、1作品につき、1回または2回の講義とする。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。

【テキスト】

The Penguin Book of American Short Stories。他、必要に応じて適宜プリント教材を用いる。

【参考文献】

英米小説特論Ⅱ

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

本講義は、前期開講の「英米小説特論Ⅰ」に引き続き、「小説の読み方」に関する技術的な必須事項を修得することを目的とする。講読作品としては、The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編及び、その他の作品を読むこととする。個々の受講生は、各作品ごとに、あらすじ、作品のテーマや手法、その他の問題点などをまとめたレジюмеを作成し、講義に臨む。講義では、レジюмеを基にディスカッション形式で進めていく。また、併せて作品に関する批評を検討する。

【授業の展開計画】

上記 The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編小説及び、その他の作品を読み進む。進度は、1作品につき、1回または2回の講義とする。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。

【テキスト】

The Penguin Book of American Short Stories及びプリント教材。

【参考文献】

上記講読作品の他、適宜紹介する。

英米文化特論

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is designed to assist students in developing their skills in understanding and analyzing British and American culture with special consideration given to aspects of culture related to language and language teaching. Students will be given considerable freedom in choosing the topics for their research paper and encouraged to choose a topic related to their MA thesis topic.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Registration and Course Introduction
2	Defining Culture
3	Language and Culture
4	Origins of British Culture I
5	Origins of British Culture II
6	Modern British Culture I
7	Modern British Culture II
8	International Spread of British Culture
9	Origins of American Culture I
10	Origins of American Culture II
11	The Dominant American Culture
12	American Sub Cultures I
13	American Sub Cultures II
14	British and American Culture Returns Home
15	Individual Consultation on Research Paper
16	Student Presentations

【履修上の注意事項】

Students should note that the class will be conducted "primarily" in English and that the research paper must be written in English.

【評価方法】

Students will be evaluated on attendance, participation, a research paper and an oral presentation.

【テキスト】

Readings provided by instructor.

【参考文献】

Students should prepare their written work in accordance with the APA Publication Manual.

英米文学特論

担当教員 山本 伸

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ブルガリアの記号学者で現代文化論における論客でもあるツヴェタン・トドロフは、16世紀のアステカ文明征服の代償として「ある種のコミュニケーション」をスペイン人（＝ヨーロッパ世界）が失った、しかもそれは近代社会を構築する上できわめて深刻な失態だったと述べています。本講義では、トドロフのいう「ある種のコミュニケーション」とは一体どのようなものなのか、そしてそれが持つ意味の重要性とは何かを、カリブ、沖縄、そして紀伊山地は熊野古道地域の歴史や文化、社会を横断的に考察することによって、近代世界が抱える課題とあるべき人類の姿について考えていきます。

【授業の展開計画】

1. カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説（前半）
2. カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説（後半）
3. トドロフ理論考察／カリブ文学におけるトドロフ理論的側面／沖縄・熊野との共通項（前半）
4. トドロフ理論考察／カリブ文学におけるトドロフ理論的側面／沖縄・熊野との共通項（後半）
5. 「先祖崇拜／土着信仰／神話・伝説」課題発表／コミュニケーションの多層性／都市と近代（前半）
6. 「先祖崇拜／土着信仰／神話・伝説」課題発表／コミュニケーションの多層性／都市と近代（後半）
7. ダンティカ原書講読①
8. 『琉神マブヤー でーじ読本』①
9. ダンティカ原書講読②
10. 『琉神マブヤー でーじ読本』②
11. ダンティカ原書講読③ & まとめ
12. 『琉神マブヤー でーじ読本』③ & まとめ
13. 課題「見えないコミュニケーション各論」発表（レジュメ／パワポ）
14. ディスカッション「見えないコミュニケーション総論」
15. まとめ（またはフィールドワーク前半）
16. 試験（またはフィールドワーク後半／のちにレポート提出）

【履修上の注意事項】

自分のコンテクストにひきつけて、一つ一つ考えて行くことにしたい。そのうえで出てくるさまざまな疑問や意見をできるだけ単刀直入に発言してほしい。

【評価方法】

出席、論述試験（講義最終日）の成績にて総合的に判断

【テキスト】

配布資料

【参考文献】

- 『カリブ文学研究入門』（世界思想社）
 『世界の黒人文学』（鷹書房弓プレス）
 『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』（世界思想社）

言語教育実習 I

担当教員 津波 聡

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

第二言語習得理論、英語教授法に関する知識を身につけると共に、授業観察・実習を通して指導技術の向上を目指す。

【授業の展開計画】

コース前半は講義・ディスカッション形式で理論について学習する。コース後半は授業観察・実習を行い、レポートにまとめる。

【履修上の注意事項】

- (1) 事前に指定の教科書を熟読する
- (2) 無断欠席・遅刻をしない
- (3) 授業観察・実習は共通科目英語IIの授業を活用する（英語II担当教師の都合を優先するため、時間の変更もあり得る。）

【評価方法】

出席率、リーディングアサインメント、実習、レポート、テストを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で連絡する。

【参考文献】

授業の中で連絡する。

言語教育実習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

言語教育実習Ⅱの内容は、初・中・上級の日本語教科書を教材研究し指導案を作成していく。そして、教材作成の方法や評価方法等を学んでいく。その後、模擬授業を経て、教壇に立つ。教壇実習は、本学で開講されている留学生等のための日本語クラスや夏期日本語研修プログラムか海外で行う。その場合は、台湾の東海大学か中国の福建師範大学、あるいはタイのバンヤーンピワット経営大学で、3週間の実習を行うことになる。実習が修士論文の内容と繋がるよう実施していく。

【授業の展開計画】

授業の展開計画

- (1) オリエンテーション（講義概要の説明等）
- (2) 外国語教授法の復習
- (3) 初級クラスの指導法及び指導案作成
- (4) 初級クラスの模擬授業
- (5) 中・上級クラス（文法）の指導法及び指導案作成
- (6) 中・上級クラス（読解）の指導法及び指導案作成
- (7) 中・上級クラス（作文）の指導法及び指導案作成
- (8) 中・上級クラス（聴解・会話）の指導法及び指導案作成
- (9) 中・上級クラス（日本/沖縄事情）の指導法及び指導案作成
- (10) 中・上級クラスの模擬授業
- (11) 年少者のための指導法（他府県の事例）
- (12) 年少者のための指導法（沖縄県の実例）
- (13) 生活者のための日本語教育（他府県の事例）
- (14) 生活者のための日本語教育（沖縄県の実例）
- (15) 初級実習
- (16) 中・上級実習

【履修上の注意事項】

事前に日本語教育に関する文献及び資料を熟読する。課題に関して文献調査し、まとめ、必要に応じて教育現場等を訪問し、その後発表を行う。授業観察と教壇実習は、本学で開講されている初級・中級・上級クラスで行うか、あるいは海外実習（春期：台湾東海大学、夏期：中国福建師範大学、タイ国バンヤーンピワット経営大学）を経験する。

【評価方法】

授業態度・授業への貢献度・課題への取り組み・模擬授業・教壇実習などから総合的に評価する。

【テキスト】

授業開始時に指示する。

【参考文献】

- ・津田塾大学言語文化研究所（2006）『第二言語学習と個性性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』春風社
- ・土屋千尋編著（2005）『つたえあう日本語教育実習 外国人集住地域でのこころみ』明石書店
- ・畑佐由紀子編（2008）『外国語としての日本語教育—多角的視野に基づく試み—』くろしお出版

言語とメディア

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は所謂マス・メディアを通じた言語を取り上げるのではない。視覚、聴覚を刺激するメディアを通して語学が学習される過程を理解し効果的な学習教材を実際に作成してもらうワークショップ型の講義となる。

前半は既存の語学試験問題の分析を行う。後半は習得項目に適した教材を作成してもらう。教材は言語理論に基づき作成し、その有効性を検証する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	世界の言語テストの紹介と分析
3	日本の言語テストの概要と解説
4	日本の言語テストの概要と解説
5	対照言語学と学習
6	日本語と英語と中国語（事例として）
7	日本語と英語と中国語（事例として）
8	e-Learning教材の紹介 既存の教材と言語学習理論の分析
9	e-Learning教材の紹介 既存の教材と言語学習理論の分析
10	プロジェクト（課題）の選定と方法論 ※以降、プロジェクト作成を開始する。
11	音韻に関する評価と問題作成
12	語順に関する評価と問題作成
13	語用に関する評価と問題作成
14	対象言語での論理性の習得について（読解と論述）
15	完成課題のプレゼンテーションとディスカッション
16	完成課題のプレゼンテーションとディスカッション

【履修上の注意事項】

e-Learning教材の作成が必須である。PCの操作方法を自習しておくこと。

作成した教材は作成者自身に帰属するので著作権に注意（他の教材からのコピーは御法度）
言語理論は講義で適宜紹介するが、自分でも積極的に読んでおくように。

【評価方法】

作成した教材の有効性が50%

論理性と結果分析が50%

【テキスト】

講義の初日に紹介する。

関連項目には配布による副教材

【参考文献】

講義で適宜、紹介する。

社会言語学特論

担当教員 一兼本 円

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ことばと社会の密接な関係を理解できるようになる。ことばの「乱れ」とは何かを理解できるようになる。自分の成長とことばの関わりを理解できるようになる。外国語と母語とのダイナミックな関係を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

以下は仮シラバスです。

教員の学会出席・出張等で少々予定が変更されることもあります。出来る限り学生の都合も考慮したいと思っています。中間試験と期末試験の結果、発言、課題の口頭発表を総合して成績を決定します。14と15回目の授業は教科書にはありません。教員の口頭発表、ハンドアウトを参考に進めます。

1. 授業時間の調整及び確認
社会言語学への招待 英語教育、日本語教育、方言、ワールド・イングリッシュに関して、Singlishに関して、日本語、韓国語、英語、ことばをマスターすることに関して、手話に関して、エスペラントに関して、映画と言葉、Political Correctnessに関して、辞書に関してマンガと言葉、ことばと歌、「空気」に関する意見交換
2. 第1章 社会言語学とは何か
「空気」と「雰囲気」、「場所」と「意味」、「日本人は日本語を大切にしているか、いないか」
3. 第2章 地域に根ざした言葉 レキシカル・ギャップ、「刎頸の友」、「恋愛結婚/お見合い結婚」
4. 第3章 話し手に根ざした言葉 「する」と「なる」の言語学
5. 第4章 聞き手に合った言葉 日本語の敬語と韓国語の敬語を考える 敬語は敬意を表すためだけか
6. 第5章 状況に合った言葉 「反応を引き出す言葉」、「沈黙」、
7. 第6章 伝達方法に合った言葉 「顔を立てる」、「謙虚さ」、「分からないのに答える」、その他
8. 中間試験
9. 第7章 日本語の人称表現 「おとうさん」、Mary、「弟」、「お姉さん」、「自分」、「君」
10. 第8章 言葉と言語
11. 第9章 言葉と文化 「天気が安定している」、「姉妹みたい」、その他
12. 第10章 言葉の変化
「済みません」→スイマセン、「みたいな」、「ていうか」、「チョーXXX」、「x xしたいと思います」→「したいです」、「おひさしぶりい」→「おひさしぶレエ」、「いつもお世話になっています」、「おつかれ」
13. 第11章 言葉と政治 作られた日本語、作られた言語、コンピュータと言語
14. 映画と言葉 日本語字幕、日本語吹き替え、映画のことばと音楽、映画の中のユーモア、
15. マンガと言葉
マンガの定義、野外のマンガ、多様化されたマンガ、マンガのことば マンガが産出した他の現象
16. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

多文化間教育特論

担当教員 伊佐 雅子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

異文化背景をもつ人とのコミュニケーションに影響を与える基礎概念と理論を学ぶ。特に、言語的、心理的、社会的要因について学び、異文化コミュニケーションに関する既存の代表的理論の考察と批評ができることを目標とする。次に、異文化摩擦の事例研究を通じて、異文化の誤解や摩擦を超えて、多文化社会に生きる上で必須となる実践的な対話力・人間関係力を養成する。また、多文化共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための英語教育、日本語教育、国際理解教育と未来をつくる教育（ESD）のあり方についても考察する。

【授業の展開計画】

1. 多文化社会に生きるうえで、なぜ異文化コミュニケーションが必要なのか
2. コミュニケーション、文化とは何か
3. 言語と会話スタイル
4. 非言語コミュニケーション：言葉を越えたメッセージ
5. 心理的要因（社会的認知、ステレオタイプ、カルチャーショック、偏見・差別への社会心理メカニズム、ヘイトスピーチ）
6. 文化と価値志向（価値観）
7. 日本在住外国人の問題、帰国日本人、国際結婚、アメラジアン問題、共文化コミュニケーション、
8. 海外旅行、海外留学、海外赴任（駐在員家族と移動する子どもたち）
9. グローバル化と英語教育、異文化コミュニケーションにおける言語選択
10. インターカルチュラル教育としての日本語教育：多文化共生のコミュニケーション
11. 国際理解教育
12. 未来をつくる教育（ESD）：ESDにおける共生
13. ステレオタイプを超えて－多面的思考と発想の転換
14. 多文化社会の対話型コミュニケーション
15. 違いを超えたコミュニケーション－シンパシーからエンパシーへ
16. レポート提出

【履修上の注意事項】

授業では本だけではなく、論文も読んでいきますので、予習に時間をかけてください。また、事例研究では、受講生のみなさんはしっかり自分の頭で考え、答えを出し、出来る限り他の学生との意見交換を試みてほしい。課題は数回ありますので、締切りは厳守してください。

【評価方法】

授業への参加度、発表、課題の提出状況とその内容によって総合的に成績を評価する。

【テキスト】

西田ひろ子編『異文化コミュニケーション入門』創元社

【参考文献】

久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣
 伊佐雅子（監修）『（改訂新版）多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社
 加賀美常美代（編）『多文化共生論－多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店

日本語学特論

担当教員 下地 賀代子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、現代日本語の文法論における様々なカテゴリー（格、テンス・アスペクト、ヴォイス、など）について理解を深めることを目的とします。現在の日本語文法は、学校教育現場と研究との間で生じているズレなど、その位置づけに関して様々な問題を孕んでいます。テキスト及び関連文献を精読し、それぞれのカテゴリーに関する議論の流れをふまえた上で、問題点についてディスカッションを行います。そして各自の研究テーマを定め、そのテーマを実例に基づいて検証し、発表します。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2～5 言語学および日本語学の基礎的事項の概説および確認
- 6～10 テキストおよび現代日本語文法論における諸カテゴリーに関わる文献の精読および討議
- 11～15 研究発表および討議
- 16 レポートについて

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席状況、研究発表、討議への参加態度、レポートを総合的に判断します。

【テキスト】

高橋太郎他『日本語の文法』ひつじ書房

【参考文献】

授業内で適宜紹介します。

日本語教育学特殊研究 I

担当教員 大城 朋子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

まず、日本語教育分野の先行研究について基礎的知識から専門的見識まで見識を深めていく。そして、研究計画書に基づき、研究テーマ、目的、意義をしばり、先行研究を読み込み、研究を進めていく上で必要となる一連の手法を習得していく。その後、研究テーマに沿った先行研究を絞り比較検証し、調査の方法を絞り予備調査の実施まで行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（本学期の目標や講義の進め方の確認他）
2	日本語教育研究の基礎①
3	日本語教育研究の基礎②
4	研究目的・意義について討議し、研究テーマの確認を行い、研究計画書を作成する。
5	先行研究の博捜と読み込み（報告）①
6	先行研究の博捜と読み込み（報告）②
7	先行研究の博捜と読み込み（報告）③
8	先行研究の博捜と読み込み（報告）④
9	先行研究の博捜と読み込み（報告）⑤
10	先行研究の博捜と読み込み（報告）⑥
11	テーマに沿った参考文献、資料のリストの作成
12	研究手法の検討、必要とされる準備の把握、
13	予備調査のための調査票を作成する
14	予備調査の実施
15	予備調査の結果とまとめ
16	夏期休暇中の調査・研究計画を作成

【履修上の注意事項】

先行研究を批判的に読んでいくこと、そして、設定したテーマとの関連性を見極め独自の見解をまとめていく姿勢が求められる。

【評価方法】

出席状況、論文の読み込み、本調査実施までの一連の手法の実施、報告やレポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

テーマに沿い博捜した論文各種をテキストとする。

【参考文献】

竹内理・水本篤（2012）『外国語教育研究ハンドブッカー研究手法のより良い理解のために一』松柏社
 中井精一編（205）『社会言語学の調査と研究の技法 フィールドワークとデータ整理の基本』おうふう他

日本語教育学特殊研究Ⅱ

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語教育学特論 I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、今日における「社会・言語・文化」の関連という観点から日本語教育とは何かを考えていきます。教員による講義に加えて文献購読およびディスカッションを交えながら、日本語教育学を学ぶうえで必要とされる知識・態度について触れます。また、講義や文献などを通して自分なりの視点をしっかり持つことで、日本語教育世界に対する意識を高めていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	言語とは、外国語とは、日本語教育とは？
3	日本語教育の世界
4	世界の日本語教育
5	ミニ発表①
6	外国語教授法の流れと現在
7	何を教えるか
8	どう教えるか
9	どう評価するか
10	ミニ発表②
11	学習リソース
12	日本語教師とリソース
13	日本語学習者とリソース
14	教師と学習者
15	ミニ発表③
16	まとめ

【履修上の注意事項】

授業は、教員による講義、学生の文献購読によるレジュメ作成と発表、討議などから成るので、各活動に積極的な姿勢で取り組むことを前提とする。

【評価方法】

文献購読と報告・ディスカッション（50%）、ミニ発表およびレポートなど（50%）

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考文献】

- ・ 国立国語研究所 編（2006）『日本語教育の新たな文脈』アルク
- ・ 遠藤織枝（2011）『日本語教育を学ぶ - 第二版 - 』三修社 など

日本語教育学特論Ⅱ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「日本語教育学特論Ⅰ」に続き、今日における日本語教育とは何かについて考えていきます。多文化共生時代の到来とともに変化しつつある今日、日本語教育世界でも従来とは異なる学習目標・環境および支援方法が求められています。この講義は、これから目指すべき日本語教育のあり方について考察していくことで、日本語教育学における新たな視点を持つことがねらいです。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	日本語・日本語教育とは何か
3	自らの言語教育観を持つ
4	多様化する日本語教育環境
5	ミニ発表①
6	今日における日本語教育事情
7	多文化共生と日本語教育
8	構成主義の日本語教育
9	学習者主体と自律学習
10	ミニ発表②
11	IT社会と日本語教育
12	日本語教育と日本語研究の関係
13	実践研究の方法
14	社会参加を目指す日本語教育
15	ミニ発表③
16	まとめ

【履修上の注意事項】

授業は、教員による講義、学生によるレジュメ作成と発表、討議などから成るので、各活動に積極的な姿勢で取り組むことを前提とする。

【評価方法】

文献購読と報告・ディスカッション（50%）、ミニ発表およびレポートなど（50%）

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考文献】

- ・佐々木倫子 他（2007）『変貌する言語教育-多言語・多文化社会のリテラシーズとは何か-』くろしお出版
- ・末田清子 編（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版
- ・蒲谷宏、細川英雄（2012）『日本語教育学序説』朝倉書店 など

日本語論文の書き方 I

担当教員 高橋 美奈子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期では、論文の定義や実質的条件を学び、その上で、論文の形式的条件、例えば、論文の組み立て方や論文を書くために知っておくべきルールを学ぶ。最終的には自身の修士論文のテーマに沿った論文構成の作成を目指す。

【授業の展開計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：論文とは何か

第3回：論文作成のための具体的な手順

第4回～5回：論文の構成

第6～9回：論文を書くためのルール（引用・注・参考文献の示し方、よく使われる表現等）

第10～11回：文献・資料の収集法

第12～15回：論文構成の作成

第16回：論文構成と論文執筆計画の提出

【履修上の注意事項】

課題文献は必ず事前に読んでくること。

【評価方法】

各回の課題や発表、最終課題の内容を総合的に判断する。

【テキスト】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部

浜田麻里 他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

【参考文献】

新堀聡（2002）『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館

道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房

細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書

日本語論文の書き方Ⅱ

担当教員 高橋 美奈子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、前期に引き続き、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的には、前期「日本語論文の書き方Ⅰ」で作成した論文構成に従って、論文の草稿を執筆することを目指す。

【授業の展開計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：研究テーマ（テーマ設定の理由）を書いてみよう

第3～6回：序論（先行研究の分析、問題提起、目的と方法）の書き方

第7～11回：本論（データの提示・分析、解釈）の書き方

第12～13回：結論（全体のまとめ、評価、展望）の書き方

第14～15回：論文の推敲

第16回：論文の草稿を提出

【履修上の注意事項】

「日本語論文の書き方Ⅰ」を履修済みのもの。各回の課題を遂行できるもの。

【評価方法】

各回の課題や発表、最終課題の内容を総合的に判断する。

【テキスト】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部

浜田麻里 他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

【参考文献】

新堀聡（2002）『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館

道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房

細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書

米文学特殊研究 I

担当教員 LC 教員 1

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 2015年度閉講

【授業のねらい】

本演習では、まず修士論文執筆のための技術的な必須事項を確認した後、個々の受講生の論文テーマの設定、資料の収集、アウトラインの作成等の作業に対して指導を行う。また同時に、実際にアメリカ文学の作品を熟読し、作品のテーマや手法を中心に考察し、併せて作品に関する批評を検討する。

【授業の展開計画】

修士論文執筆に関する指導は、必要に応じて随時行う。実際の講義においては、アフリカ系アメリカ人の文学を中心に、「二重意識」の問題に焦点を当てた作品である、Richard Wright著『Native Son』、Ralph Ellison著『Invisible Man』、Toni Morrison著『The Bluest Eye』等の講読を予定している。但し、受講生の修士論文執筆予定の分野からの作品講読も、個別に相談の上、検討する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。

【テキスト】

Richard Wright『Native Son』、その他。

【参考文献】

上記講読作品の他、適宜紹介する。

米文学特殊研究Ⅱ

担当教員 LC 教員 1

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考 2015年度閉講

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習では、「米文学特殊研究Ⅰ」で学んだことを基に、中間発表および修士論文執筆の指導を行う。

【授業の展開計画】

実際の講義では、まず、英米文学の論文執筆に欠かせない『MLA Handbook for Writers of Research Papers』を熟読し、英米文学論文執筆のための書式に精通させる。次に、各種の書誌から先行研究を検索し、受講生各自の論文テーマに関する資料の収集を行う。また同時に、綿密なアウトラインの作成を行い、中間発表に備える。その後は、実際の論文執筆において、必要に応じた指導を行う。（なお、資料収集やアウトラインの作成に関しては、個々の受講生の進捗によって、「米文学特殊研究Ⅰ」の中で行うこともある。）

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

資料の収集、アウトラインの作成、中間発表、論文執筆等を中心に、総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

『MLA Handbook for Writers of Research Papers』の他、適宜紹介する。

マルチリンガル教育特論

担当教員 李 イニッド

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

This course is a general introduction to the study of multilingualism and multilingual education. It is intended to provide students with an understanding of the key perspectives that have been posed about multilingualism, issues surrounding the teaching and learning of a second, third or additional language, and practices in diverse social and educational contexts around the world. 本講義では、多言語教育のあり方をめぐって、その可能性や諸課題も含め、総体的に考察することを目標とする。多言語教育の理論と実践を学び、様々な多言語社会の事例研究や諸問題について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction インTRODクシヨN
2	Terminological inconsistencies 用語の定義
3	"
4	Becoming multilingual 多言語習得
5	"
6	Staying multilingual 多言語能力の維持
7	"
8	Acting multilingual 多言語使用・混用
9	"
10	Living in a multilingual society & negotiation of identities 多言語社会とアイデンティティ
11	"
12	Multilingualism in education 教育現場における多言語化の現状と課題
13	"
14	Students and teachers in the multilingual classroom 多言語教室の実態
15	"
16	Research topics 研究課題

【履修上の注意事項】

Students are expected to engage in extensive reading, summarize the main points of each article and present them in class. Class discussions, rather than lectures, will make up the bulk of our in-class time.

受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジユメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。

【評価方法】

Attendance & class participation (50%). Term paper & oral presentation (50%).
出席率及び授業参加態度(50%)、レポート及び口頭発表(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

配布資料 (英語・日本語)

【参考文献】

講義開始時に指示する。

ヨーロッパ文化特論

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の社会は、政治的には議会制民主主義、経済的には市場経済にもとづく資本主義の枠組みの中にあると考えられる。この枠組みを形成し、先導してきたのがヨーロッパという地域である。

現在、「多様性の中の統一」という理念においてヨーロッパ連合（EU）の試みが実行されている。戦争の世紀を経てきた反省から、「対話」による平和への希求、「文化的多元性」の尊重、そのような理念を支える、文化的、思想的、地域的な基盤を考えてみる。

【授業の展開計画】

- 1週： オリエンテーション、「多様性の中の統合」
- 2週： ヨーロッパ世界の形成と変容
- 3週： 非ヨーロッパ圏から考えるヨーロッパ
- 4週： EUの歴史と現在
- 5週： ヨーロッパの言語
- 6週： ヨーロッパ多言語主義の可能性—ヨーロッパの言語事情
- 7週： ヨーロッパの神話と民話①
- 8週： ヨーロッパの神話と民話②
- 9週： 近代ヨーロッパ社会の中の音楽
- 10週： ヨーロッパの思想①
- 11週： ヨーロッパの思想②
- 12週： ヨーロッパとキリスト教①
- 13週： ヨーロッパとキリスト教②
- 14週： 近代(前衛)の試みと女性芸術家①
- 15週： 近代(前衛)の試みと女性芸術家②
- 16週： レポートについて

【履修上の注意事項】

テキスト『ヨーロッパ学入門[改訂版]』（朝日出版社）を使用する。輪読形式をとるが、履修者は必ずその単元を読んでくること。履修者相互の積極的な発言を期待します。

【評価方法】

出席状況、授業への参加態度、レポートを勘案して評価する。

【テキスト】

『ヨーロッパ学入門[改訂版]』（朝日出版社）

【参考文献】